

【10年間の計画概要】

		構想実現に向けた教育体制の基盤構築			基盤を活かした教育力の飛躍とスーパーグローバル化				点検評価によるスーパーグローバル化				
		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35		
展開	国際展開	奨学金	新設 グローバル選抜助成金、私費外国人留学生特別助成金助成										
		留学生寮	用地・建物取得計画・工事、混住型学生宿舎運営										
		留学支援	プログラム検討				ブリッジ型（語学研修+語学研修後の正規科目履修）プログラム正式導入						
	科目	語学力強化	既設 実践的英語力強化プログラム				新設 実践的英語力強化科目				必修化		
		留学関係科目	既設 留学準備講座		留学関連科目の拡充								
		グローバル教養	既設 国際教育プログラム				新設 グローバル教養科目				必修化		
		グローバル専門	既設 各学部英語で行う科目				新設 グローバル専門科目						
		海外有名教員招聘授業	既設 トップスクールセミナー		グローバルトップスクールセミナー（全学部）								
基盤	ガバナンス	PBL科目	既設 学部横断実習科目				新設 分野横断PBL科目						
		組織編制	既設 国際教育センター				グローバル教育センター						
		教員人事	任用方針策定、規程整備				テニュアトラック制度の導入				テニュアトラック教員の任用		
	教育システム	職員人事					専門的職系による採用導入						
		ナンバリング	一部科目で設定		全学共通科目で設定								
		学事暦	導入準備		システム開発		試験運用		半期14週（7週+7週）学事暦設定【1コマ100分による授業】				
		時間割							1コマ100分（50分+50分）時間割運用				
	入試	アクティブ・ターム	制度設計		カリキュラム改訂		一部学部で設定			全学部で設定			
一般入試		制度検討導入		入試広報		一般入試（一般選抜入試、全学部統一入試、大学入試センター試験利用入試）のいずれかによる実施 入学試験でTOEFL等外部試験の得点を英語の正規試験の得点として換算する併願方式							
多面的入試		制度検討導入		入試広報		新設 SGH入試、スーパーサイエンスハイスクール入試、国際バカロレア入試							
外部評価		新設 外部評価委員会の設置				外部評価（1回目）		外部評価を踏まえた改善		外部評価（2回目）		外部評価を踏まえた改善（最終）	

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

「総合的教育改革」における新たな教学システムの開発

柔軟なアカデミックカレンダーの設定を可能にする旨の大学設置基準の一部改正の主旨に基づき、平成29年度から、1コマの授業時間を従来の90分から100分(50分+50分)に変更し、各学期の授業期間を14週とする「新たな授業時間割」を決定しました。この決定により、法令上必要となる授業時間を正しく確保するとともに、今後は、1コマの授業時間の拡充と50分単位でのモジュールを活用し、柔軟な授業設計を可能とすることで、授業方法の質的転換、アクティブ・ラーニングの推進を図っていきます。さらに、授業期間が14週となり、ゆとりをもった学年暦が構築されることから、これを半分の7週で区切ることで、各学部・各研究科の人材養成目的、カリキュラムに応じ、いわゆるクォーター授業の展開をこれまでより容易にする学年暦上の枠組みを構築していきます。

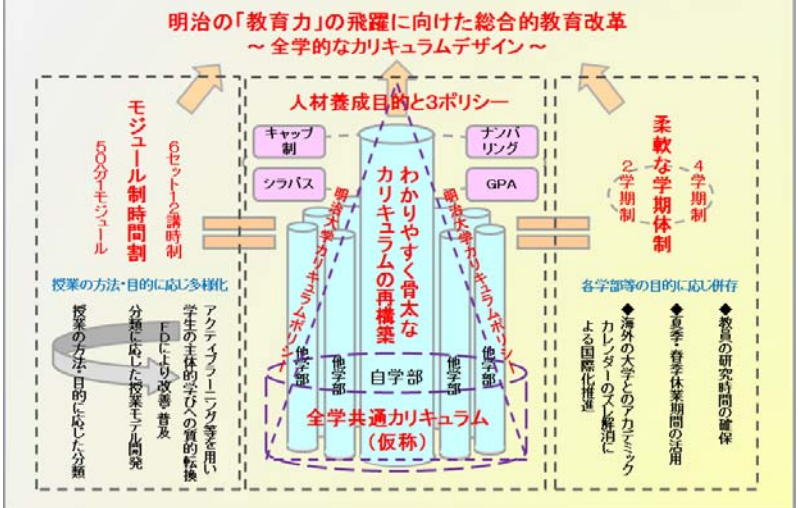
この新たな授業時間割、学年暦が平成29年度から実施された暁には、各学部・各研究科のカリキュラム上の工夫により、必修科目や主要科目をクォーター期間で実施していくことで、学生が自らの履修上の工夫により、主体的な活動が可能となる期間(アクティブ・ターム)を設けることが可能になります。学生はこのアクティブ・タームを自ら作り出し、活用することで、短期留学、研修、実習、インターンシップ等の海外体験に積極的に行けるようになります。こうした学生の意欲に応えるため、留学等の国際プログラムを整備する他、他学部での特色ある講座や全学共通プログラム等、学生が自ら学ぶ意欲に応える機会を提供していきます。学生自らが「未来開拓力」に優れた人材として自らのキャリア・パスをデザインするために、国内外を問わず多様な価値観に触れ、積極的に異文化体験を積むための基盤整備の準備を確実に進めています。

(総合的教育改革イメージ)

〈新たな授業時間割イメージ〉



総合的教育改革構想図



2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

「学生による学生支援制度」設計

泊江インターナショナルハウスにおいて「コミュニティ・コーディネーター制度」を制定し、学生の学修や生活のサポート、さらにはイベントの運営による寮生同士の交流を促進する目的でコミュニティ・コーディネーターとジュニア・コミュニティ・コーディネーターを配置しました。

また、中野キャンパスには「国際日本学部国際交流活動推進室」を設置し、海外留学経験者による体験談や現地情報等を、今後海外留学する学生や海外留学を目指す学生に伝える場として提供することで、学生相互のネットワークを強化するとともに、学生の留学に対する意識をより促進しています。

国際シンポジウム等の開催

平成27年3月31日(火)に、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」採択記念シンポジウム「東アジア地域における相互理解と相互信頼の醸成～安定的に繁栄する東アジアの形成にむけて～」を開催しました。

本シンポジウムは、ノースイスタン大学、デューク大学、北京大学、延世大学と協力し、招へい者によるパネルディスカッションに加え、学生によるプレゼンテーションも実施し、高度な課題に関して自ら考え、自ら解答を導くというグローバル人材には欠かせない能力の開発を実践的に行いました。



〈マイケル・デュカキス氏(元マサチューセッツ州知事)キーノートスピーチ〉



〈学生によるプレゼンテーション〉

グローバル選抜助成金、私費外国人留学生特別助成金制度の新設

優秀な留学生獲得のため、平成26年度に「グローバル選抜助成金」、「私費外国人留学生特別助成金」の2つを新設し、その給付に向けた選考を実施しました。当該制度については、平成26年度に実施した海外協定校との連携強化のための協議出張においても、広く周知しており、優秀な留学生獲得のための情報発信も強化しました。

ガバナンス改革関連

グローバル教育センター(仮称)の設置とテニュアトラック制度の検討

グローバル化を推進するための組織再編として、グローバル教育センター(仮称)を設置する予定です。それに先立つ国際化推進科目群(仮称)の検討体制を整備しました。また、テニュアトラックの導入について、他大学での導入状況を調査し、本学の教員制度全体において、どのような形で導入するのが最適なのかについて検討を進めました。平成27年度中に関係校規の改正、平成28年度に公募、採用等の手続きを行い、平成29年度からの任用開始を目指しています。

推進体制の整備および事務組織の設置の検討

教学の最高意思決定機関である学部長会を、本事業を統括(マネジメント)する組織体としました。その下に、各種政策の具体化を図るため、推進委員会を新設するための内規の整備しました。また、それらを支えるSGU推進プロジェクトチームを全学の関係事務部署から招集し組織しました。

海外研修の実施



〈ネブラスカ大学でのFD研修〉

平成27年3月に教員の資質向上のための国際FD研修を米国のネブラスカ大学オマハ校にて実施しました。参加教員は、双方向型授業やアクティブラーニングの実践方法等、英語による授業を前提とした実践的なスキルを習得しました。

また、海外研修(海外教育機関派遣型)制度において、平成26年8月に10名の若手職員を国際化事業の推進等に関する資質向上のため、米国のカリフォルニア大学アーバイン校に派遣しました。さらに、長期海外研修制度において、フルブライト奨学金を獲得した職員を修士学位取得のため、米国の大学に派遣しました。

教育改革関連

TOEFL等外部テスト利用入試のための講演会

平成27年2月24日(火)に、TOEFL等外部テスト利用の入試改革についてのFD研修として、英語の4技能「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」を熟知した専門家を招へいし、学内講演会「英語教育・大学入試改革～4技能測定試験の活用について」を開催しました。同講演会では、外部テスト利用入試の意義や活用方法に加えて、他大学での導入事例も紹介されました。

英語版シラバス公開システムの開発

本学に留学を希望している受験生や、本学の英語学位コースに在籍している学生及び英語で授業を学びたいと考えている学生のため、平成29年度から講義科目のシラバスを全て英訳し、国内外から英語版シラバスを閲覧できる環境を整えるため、英語版シラバスの公開システムの開発を進めました。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

国内での国際体験空間形成

海外へ毎年4,000人の学生を送り出すという計画の一方で、留学生の受入れとして毎年4,000人を受入れる予定です。本学は日本語学校の教職員が留学生に薦めたい大学を選ぶ「日本留学アワーズ」で、文系部門3年連続1位を獲得し、留学生の受入れにおいて高い評価を受けており、留学生への日本語教育強化も含め留学生支援を充実させています。

「国内での国際体験空間形成」とは、このように毎年4,000人受け入れる留学生と交流するプログラムであり、海外留学をしなくても国内で国際体験を可能とする場と機会の提供のことで。人気の高いCool Japan Summer Program、Law in Japan Programなどの日本語短期プログラムにおいて交流させ、またノースイースタン大学、南カリフォルニア大学等の学生受入れプログラムでは、学生同士での議論の場を設けており、今後さらにこうした機会を増やします。地域連携活動では、「地域活性化への提言」を行う課題解決型の学生派遣プログラムを実施しており、これに外国人留学生も参加することで地域連携の相乗効果を引き出していきます。



〈山中翊セミナーハウスにて
ノースイースタン大学生との議論の様子〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

世界都市東京からの知の創造



〈WC 2総会〉

“World Cities, World Class University Network” (WC2、幹事校: City University London)の年次会合を開催し、世界の主要都市に所在する都市型大学8大学が参加しました。3日間にわたる会合開催中は、本学教員も各テーマに分かれた分科会(Club)に参加し、本学の研究活動の一端を大いにアピールしました。

このような国際大学間ネットワークと積極的に連携することで、世界に開かれた都市型大学として、大学間連携を強化するとともに、教員自身の人的ネットワークについても深めることができました。

世界に飛び出す100の国際プログラム

本学のSGU構想では、毎年、明治大学を卒業・修了する8,000人全員を「未来開拓力に優れた人材」として社会に送り出す計画です。「未来開拓力」を身に付けるためには、主体的学びが大切であり、その最も重要な手段は、海外への学生の送り出しです。年間4,000人の海外送り出しを計画しており、4年間では16,000人になります。本学の学生数は約32,000人なので、学部生であれば卒業する4年間のうちに留学をする学生が半数という計算です。つまり、2人に1人が留学することになります。

そして、留学を具体化させるのが「世界に飛び出す100の国際プログラム」です。明治大学では、専門科目を英語で学ぶことで世界に通用する強靱な知識・思考力と英語スキルの獲得が可能と考えています。例えば、夏期約3ヶ月間のサマーセッションでは、現在、UCバークレーなど8つの大学と協定を締結し、多数の学生を送り出していますが、本プロジェクトではこれを20大学、年間600名に拡大します。他にも、留学支援機関のELS等と連携した留学プログラム、ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ夏期法学研修、短期留学講座「フレンチファッション・プログラム」、リヨン政治学院留学プログラム、ディズニーワールド(Walt Disney World)提携セメスター・インターンシップ留学プログラムなど学生が世界に飛び出すための100の扉を用意します。

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. 学生の語学レベル向上のための取組み

実践的な英語力を身に付けるため、「実践的英語力強化プログラム」を開講しています。平成27年度はTOEFLやIELTS試験対策講座、海外にいる専門講師からの遠隔授業、マルチデバイスに対応したe-Learning講座など4つのプログラムを開講し、1,125名の学部生・大学院生が受講しました。また、アメリカの英語教育機関ELSと連携した「インテンスブアカデミック英語プログラム」を新たに開講し、2月期14名、3月期13名が受講しました。

平成28年度からは、全新生が入学時点でTOEICもしくはTOEFLを受験し、1年次の英語クラス編成やレベルチェックに活用することになりました。さらに、半数以上の学部においては、1年次秋学期にも受験し、2年次の英語クラス編成等にも活用することになりました。

2. 外国語による情報発信および海外向け広報の強化

優秀な留学生の獲得のため、英語による大学及び学生生活紹介動画「About Meiji University」、「Life at Meiji University」を制作し、国内外への情報発信を強化しました。また、アセアン3か国(インドネシア、シンガポール、ミャンマー)の各国テレビ放送局「WAKUWAKU JAPAN」にて本学の特集番組を放送するとともに、各国新聞への広告掲載、パナー広告を北米や米国西海岸等に向けて発信しました。

さらに、明治大学の特長を25のトピックで分かりやすく伝えるPRサイト「ALL ABOUT MEIJI~Meiji in Numbers」を開設し、日本語を含む10か国語で展開するなど海外向け広報を強化しています。



〈 ALL ABOUT MEIJI~Meiji in Numbers 〉

ガバナンス改革関連

1. 海外研修等の実施

教員の資質向上のための国際FD研修を米国のカリフォルニア大学アーバイン校にて実施しました。8名の参加教員は、双方向型授業やアクティブラーニングの実践方法等、英語による授業を前提とした実践的な教授法を習得しました。

また、職員については、国際化推進を担う中核人材育成のため海外での留学・就労体験型研修をカリフォルニア大学デービス校(11名派遣)で実施しました。11名の参加者は、帰国後、大学の経営陣(理事長、理事)らに対し、研修成果の報告と明治大学の運営に関する提言を行いました。

加えて、平成28年度にセーデルトーン大学(スウェーデン)へ職員を1年間派遣することを決定し、海外大学とのネットワーク構築や海外高等教育事情に精通した人材の育成に取り組んでいます。



〈 カリフォルニア大学デービス校でのプレゼンテーション 〉

2. IR運営委員会の設置と分析レポートの発行

IR運営委員会を設置し、データの側面から意思決定を支援する体制を整備しました。委員会では、全学レベルのデータウェアハウスを構築し、分析に資するIRデータベースの運用を開始しました。それに伴い、各学部執行部と「データに基づく教学運営」について意見交換を行い、その結果を踏まえ、教育データを分析したレポート「IRデータカタログ(2015年)」を発刊し、外国人留学生の学習傾向などを明らかにしました。今後は、主に教育改善を目的とした調査分析と報告・提言を行います。

教育改革関連

1. 新たな授業時間割の導入と総合的教育改革の推進

平成29年度より、新たな授業時間割(1コマ100分:50分モジュール×2)を導入することになりました。新たな時間割は単に90分から100分へ1コマの授業時間を拡充するだけでなく、「授業の質的転換に向けた授業方法の多様化」に対応し、授業の適性に応じて弾力的な授業を行なうことを目指しています。そのため「100分授業導入に係る授業方法研修会」を開催し、他大学のアクティブ・ラーニング事例等を交え、本学の授業を質的に転換していくための方法論の報告・質疑を行いました。

また学年暦についても、各学期とも14週となる授業期間を前半と後半の7週ごとに区分けすることも可能な「柔軟な学年暦」の導入を予定しています。新たな学年暦では従来の半期セメスター科目を原則としつつ、各学部・大学院の授業目的・方法・教育効果の面または国際化推進施策に応じ、7週完結による集中型授業の展開も可能となります。これにより、各学部の国際化政策等に応じて、学生が留学しやすくなる環境を整備できる仕組みの構築を目指しています。

2. TOEFL等外部試験の学部入試への活用

各学部の教職員を対象に、「英語資格・検定試験の入学試験における活用に関する勉強会」を開催し、社会の動向、他大学や他学部の状況について、一般選抜入学試験での導入を決定した学部の事例等を紹介しつつ、勉強会をおこないました。また、入学センターにおいて各種外部試験の情報を収集し、定期的に各学部等に周知しました。

平成29年度入学試験より、一般選抜入試においては経営学部が英語4技能試験活用方式を導入することを決定し、特別入試においては商学部が大学入試センター試験利用特別入学試験においてTOEFL利用の募集枠を設定、政治経済学部がグローバル型特別入学試験を新規導入、国際日本学部がイングリッシュ・トラック入試の出願資格を日本国籍者にも拡大すること等を決定しました。

TOEFL等外部試験を活用することで、従来の入試では測ることができなかった「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語4技能から学生の語学能力の判定を行うことが可能となるとともに、語学力のみならず、異文化理解や論理的思考力を有し、積極的かつ主体的に海外で学習する資質を持った学生を選抜できる体制が整いました。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

1. 外国人留学生受入れ促進と国内での国際体験空間形成

海外へ毎年4,000人の学生を送り出すという計画の一方で、外国人留学生の受入れとして毎年4,000人を受入れる予定です。本学は日本語学校の教職員が留学生に勧めたい大学を選ぶ「日本留学アワード」で、私立大学文科系部門(東日本)で4年連続1位を獲得し、留学生の受入れにおいて高い評価を受けており、留学生への日本語教育強化も含め留学生支援を充実させています。

「国内での国際体験空間形成」とは、このように毎年4,000人受け入れる留学生と交流するプログラムであり、海外留学をしなくても国内で国際体験を可能とする場と機会の提供のことです。人気の高いCool Japan Summer Programや日本語短期プログラム等の短期受入プログラムでは、学生サポーターやボランティアを募集し、異文化交流の場を提供しています。

また、平成28年度からは和泉キャンパスの国際交流ラウンジにおいて「English Cafe」をオープンする他、外国人留学生が入居する寮における「学生レジデントサポーター」制度の活用や「地域交流プログラム」の新規展開等、国内での異文化体験空間を提供していきます。



〈日本留学アワード 4年連続1位受賞〉



〈和泉キャンパスで開講するEnglish Cafe〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

1. 多様な国際プログラムと海外留学支援体制の拡充

本学の「スーパーグローバル大学創成支援」構想は、毎年、明治大学を卒業・修了する8,000人全員を「未来開拓力に優れた人材」として社会に送り出す計画です。学生が「未来開拓力」を身に付けるためには主体的学びが大切であり、中でも最も重要な手段は、海外留学です。8年後には、年間4,000人の学生を海外へ送り出し、2人に1人が卒業までに留学することを目指しています。

そのため現在、明治大学では、カリフォルニア大学バークレー校とのサマーセッション、リヨン政治学院留学プログラム、ディズニーワールド(Walt Disney World)提携インターンシップ留学プログラムなど、多様な国際プログラムを展開しています。また、海外留学を希望する学生への支援として、平成25年度より実施している「海外留学カウンセリング」制度に加えて、平成27年度より各キャンパスにおける「海外留学フェスタ」の新規開催(平成28年度も継続開催)や、平成28年4月からは和泉キャンパスに「海外留学相談窓口」を開設しています。



〈リヨン政治学院留学プログラム〉



〈海外留学フェスタの様子〉

2. 明治大学アセアンセンターの機能強化

タイ・バンコクに設置する明治大学アセアンセンターでは、ASEAN地域の外国人留学生を対象とした渡日前日本語教育や明治大学キャンパスとの遠隔授業等を実施してきました。当該地域への海外留学プログラムでは、明治大学アセアンセンターが派遣学生の生活相談やサポートに加えて、緊急時の現地派遣学生の安否確認等の危機管理において、最前線の役割を果たしてきており、機能強化を図っています。